資料2_付属資料イ

袋井市

若者の声を起点に、分野横断で取組むプレコンセプションケアの推進

取組の背景・目的

本市は、2025年度の市の組織改編により「こども若者家庭センター」を設置し、これまでの妊娠、性や健康に関する事業の見直しを進めた。その中で、関係する部署の保健師、管理栄養士などの専門職が、プレコンセプションケアについて学ぶ勉強会を開催するとともに、各部署で取り組んでいる事業の情報交換を行い、2026年度からの実施に向け、土台作りに取り組んだ。

これまで保健予防部門や教育部門など各部署で、性や健康に関する授業・講座、予防接種、健診など、プレコンセプションケアにつながる取組は行ってきたが、市全体としての体系化や市としての考え方の統一、課題の共有は十分ではなかった。そこで部署をまたいで全庁的に事業を取りまとめ、連携を強化する必要があると判断した。さらに同年に国が「プレコンセプションケア推進5か年計画」を策定したことを受け、2026年度から本格的にプレコンセプションケア推進事業を開始した。

性別を問わず適切な時期に性や健康に関する正しい知識を身につけ、妊娠・出産を含めたライフデザインや将来の健康管理ができる市民の増加を目的に事業を展開する。

具体的な取組内容



【ふくろいプレコンマップ】

○プレコンセプションケア推進チームの発足とプレコンサポーターの養成
プレコンセプションケアを総合的に推進するため、関係部署による「プレコンセプションケア推進チーム」を設置した。保健、健康、教育、男女共同参画、こども支援など7課が連携し、各部署の関連事業を整理・可視化した「ふくろいプレコンマップ」を作成することで、市の強みや課題を共有し、分野横断的な推進体制を構築した。

また、人材育成にも力を入れており、市内の養護教諭や助産師などにプレコンセプションケアの重要性を周知するとともに、プレコンサポーター養成講座の受講を促進した。推進チームのメンバー自身も受講し、19人のプレコンサポーターを養成するなど、地域で啓発活動を担う人材づくりを進めている。



【市内ドラッグストアでのデジタルサイネージ】

○未来につなげる情報発信
幅広い世代への情報発信に積極的に取り組んでいる。市ホームページや広報紙に加え、市内ドラッグストアのデジタルサイネージ、市内企業向け健康情報配信、市職員向け情報配信など既存の情報媒体を活用し、プレコンセプションケアの普及啓発を実施した。さらに、保育園から中学生までの子どもとその家庭を対象とした情報誌への掲載や、高校の文化祭でのブース出展など、ライフステージに応じた継続的な情報発信を行っている。


【企業への出前講座の様子】

○小・中学校、専門学校、企業への出前講座、若者の声の反映
普及啓発の一環として、小・中学校や企業への出前講座を実施している。小中学校では、プレコンセプションケアの基盤となる「自分や他者を大切にする心」や「命の大切さ」を伝える「いのちの話」を開催しているほか、若年層へのアプローチとして企業向け講座も展開し、将来の健康やライフプランについて考える機会を提供している。
さらに、事業の企画や啓発には若者の意見を積極的に取り入れている。市内大学の学生サークル「リケジョカフェ」、看護学生、高校生、市役所の若手職員などから意見を収集し、「みんなのプレコンvoice」として事業改善に活用している。若者から得られた意見は講座内容や啓発チラシ、広報活動に反映され、4コマ漫画やクイズなど親しみやすい手法を採用することで、若い世代が関心を持ちやすい工夫を行っている。



【プレコンを知ってもらうための周知啓発素材】

○今後の展開
今後は、「ふくろいプレコンマップ」によって把握した市の強みと課題を踏まえ、引き続き関係部署が連携しながらプレコンセプションケアを推進していく方針である。子どもを持つかどうかにかかわらず、市民一人ひとりが将来の健康や人生設計について主体的に考え、より豊かな人生を送ることができるよう、当事者の声を大切にしながら継続的な取り組みを進めていきたい。